

## 平成24年度共同利用研究・研究成果報告書

|        |   |
|--------|---|
| 研究課題名  | 和文：神岡鉱山における歪・傾斜・地震計測<br>英文：Strain, tilt, seismic measurement in Kamioka-mine  |
| 研究代表者  | 荒木英一郎（海洋研究開発機構 地震津波防災研究プロジェクト）  |
| 参加研究者  | 北田数也、木村俊則（海洋研究開発機構 地震津波防災研究プロジェクト）  |
| 研究成果概要 | <p>神岡鉱山において、地殻歪や地震動等の観測装置を掘削孔内に設置を行い、連続的観測を実施することによって、神岡鉱山とその周辺での地殻変動様式を実観測によって明らかにすることおよび、東南海地震震源域の海底の掘削孔内に設置した同等の観測装置の動作と比較を行い、設置した観測装置が陸上および海底の環境で正しく動作することを確認することを研究の目的として、神岡鉱山へのセンサーの試験設置と観測を継続的に実施している。</p> <p>神岡鉱山および海底への最初の観測装置の設置は2010年12月までに実施されており、平成24年度には宇宙線研のネットワークへ接続を行い連続観測に移行した。現在のところ、孔内体積歪、傾斜、孔内温度、孔内間隙水圧、壕内の広帯域地震観測を実施し、継続的に分析を行っている。</p> <p>孔内での体積歪観測データに見られる潮汐の振幅が、2012年5月ごろに大幅に減少した。間隙水圧記録を見るとちょうどその時期に間隙水圧の増加がみられていることから、地下水位の増減に伴って、歪計への潮汐歪の伝達様式が変化する可能性が示唆される。今後傾斜変動や観測された地震動との関連などの調査をさらに進めることが必要と考えられる。</p> |
| 整理番号   |   |